



No. 9

Duke大学での留学体験記

Duke大学医学部腎臓内科 ポストドクトラルフェロー

井出 真太郎

■はじめに

はじめまして、現在米国Duke大学医学部腎臓内科で研究留学を行っております井出真太郎と申します。2018年10月に留学を開始しました。この体験記を書いている段階で3年が過ぎますが、異国での新生活、研究留学生活だけではなく、COVID-19によるパンデミックなど激動の日々を過ごし、さまざまな貴重な経験をさせていただきました。これから海外留学をご希望されている先生方の参考になればと思い、私の体験談をご紹介します。

■留学の経緯

私は2年間の初期臨床研修を経て糖尿病・代謝疾患に興味をもつようになり、千葉大学医学部糖尿病代謝内分泌内科に入局いたしました。後期研修医として日常臨床を行うなかで、糖尿病、高血圧、脂質異常症に対する集学的治療を行うも、糖尿病合併症が進行する症例を多く経験し、基礎研究の分野からこれらの症例に貢献できないかと考えるようになりました。そして、千葉大学大学院に進学し、そこで恩師の前澤善朗先生に代謝疾患と密に関連する腎臓の基礎研究について手厚くご指導いただきました。大学院では、腎臓の発生に関する研究で学位を取得いたしました。大学院時代には、海外の著名な研究者の講義を拝聴する多くの機会に恵まれ、また留学から帰国された先生方のお話を聞き、海外留学への憧れを

もっておりまして。そのようななか、非常に幸運なことに恩師のご友人の先生がDuke大学腎臓内科にて新規研究室を立ち上げるというお話をお聞きし、その研究室のポスドクとして迎えていただくこととなりました。もちろん、住み慣れた母国や職場を離れることへの不安、臨床医としてのブランクへの不安、金銭面の問題、子供の教育などのこともあり、留学は安易に決断できるものではありません。しかし、人生のなかで臨床から一時的に離れて基礎研究に没頭できる時間は今しかないのではないか、このチャンスを取りこぼしてはいけないのではないか、と考え留学を決断しました。

■ノースカロライナでの留学生活

2018年秋、家族とともに米国ノースカロライナ州へ移住いたしました。ノースカロライナ州は温暖な気候に恵まれ、自然が豊かで子育てに最適な環境です。治安は米国内では比較的よいといわれており、日々安全に生活することができる点も魅力の1つです。

留学するなかで研究以外に子供の成長を見られることも楽しみの1つだと実感しています。3歳で渡米した長男は、当初は言語の壁に悩まされていたものの、6歳になった今では英語を流暢に話すようになりました。また、米国での小学校教育、ハロウィーンや感謝祭などのアメリカならではのイベント、グランドキャニオンや広大な大自然を数多く経験できたことは、親子共々かけが